

### 将来の象徴として

・ 天皇制に対する歴史意識

戦争体験／小泉信三の教育／多数の外遊経験

『木戸幸一日記』などの原史料を読む

沖縄における経験とその後の学び

近代史を学ぶことの意義

歴代天皇の事績との関連

### 昭和天皇の死去(1989年)

・ 昭和天皇死去時の「自粛」騒動(1988年～)

体温・脈拍・出血の発表

運動会や企業イベントの中止

本島等長崎市長「天皇の戦争責任はあると思う」発言

→ 1990年1月18日に右翼によって銃撃

1989年1月7日に死去(87歳)

→ 圧倒的なテレビ報道／レンタルビデオ店に殺到する人々

・ 「平和的な天皇」イメージの伝播

マスメディアの中での広がり→歴史学での研究の深化へ

## 現天皇(明仁天皇)の即位(1989年)

### ・「開かれた皇室」路線

日本国憲法を遵守(守る)することを約束

### ・皇室外交の積極的な展開

1990年5月 盧泰愚韓国大統領来日に伴う「おことば」問題

1991年9・10月 タイ・マレーシア・インドネシア／1992年10月 中国への訪問  
→保守政権による意図と天皇の意思の問題

### ・被災地への訪問

1991年 雲仙普賢岳(長崎県)へのお見舞い／1995年 阪神淡路大震災

## まとめ

- ・権威化による停滞とそこでの皇太子の模索
- ・「自粛」という権威性

## 参考文献

- ・河西秀哉『明仁天皇と戦後日本』(洋泉社、2016年)
- ・瀬畑源「『昭和の終焉』とはなんであったのか」『人民の歴史学』204号、2015年